

## 令和元年度第1回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 令和元年5月29日(水) 午後1時30分から

2. 場 所 熊野市役所 2階 第1会議室

3. 出席者 熊野市長 河上敢二  
熊野市教育委員会  
倉本教育長 大久保委員、糸川委員、北野委員

4. 事務局関係

教育委員会事務局

岡本総務課長、佐藤学校教育課長、雑賀社会教育課長

大谷総務課長補佐

市長公室

松岡市長公室長

総務課

山本総務課長

5. 事 項

(1) について

岡本総務課長 定刻になりましたので、ただいまから令和元年度 第1回熊野市総合教育会議を開催いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます、教育委員会 総務課長の岡本でございます。よろしくお願いいたします。お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。

最初に、総合教育会議 開催にあたりまして、河上市長からご挨拶をお願いいたします。

河上市長 教育委員の皆様には、お忙しい中、令和元年度第1回目の総合教育会議にご出席賜り誠にありがとうございます。

また、日頃より当市の教育行政の推進について、ご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年度は、熊野市教育大綱に基づき、重点施策5項目をはじめ、様々な事業に取り組んでまいりました。

本日は、昨年度の重点施策5項目についての成果と課題をまとめておりますので、検証を行ってまいりたいと考えております。

また、熊野市教育大綱については、平成27年度からの5年間の取組の方向を定めており、今年度は最終年度となります。この教育大

綱の策定にあたっては、総合教育会議において協議することが「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で定められておりますので、本日は、大綱改定にあたっての進め方についてもご意見をいただきたいと考えております。

一方、昨年6月に策定された国の第3期教育振興基本計画の中で、超スマート社会の実現に向けて人工知能いわゆるAIやビッグデータの活用などの技術革新が急速に進んでおり、こうした社会の大転換を乗り越え、全ての人が、豊かな人生を生き抜くために必要な力を身に付け、活用できるようにする上で、教育の果たす役割は大きく、これらに対応した取組が求められています。

本日、議題の一つとさせていただいております「学力の向上の推進」においても、学力向上はもとより、グローバル社会に対応できる児童生徒の育成や、ICT教育の推進について大学などと連携した施策を講じていく計画となっております。

平成28年度より全国でもトップクラスの子育て支援策の一つとして実施しております、「こどもは宝・未来への希望基金」による様々な子育て支援事業の効果についても、しっかりと検証し、子ども達の安全安心はもとより、子育てしやすい環境づくりについても継続して行ってまいりたいと思っております。

社会教育の分野におきましては、昨年度、全国高等学校総合体育大会が三重県を中心に開催され、本市においても8月2日から12日までの間、女子・男子のソフトボールの試合が開催されました。大会開催にあたっては、地元高校生のみなさんをはじめ、関係団体の皆様のご協力もあり、全国から訪れた多くの選手や観客の皆様を迎え入れることができました。

また、来年は東京オリンピック・パラリンピック大会、そして、令和3年度には三重県での国民体育大会も控えております、市民の皆様のご協力のもと、市全体で機運を高めていく取組を行っていきたいと考えております。

本日は、忌憚のないご意見をいただき、より効果的な取組に繋げていきたいと考えておりますので、なお、一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

岡本総務課長

ありがとうございました。本日は、高見委員より欠席のご連絡をいただいております。

お手元に配布の資料の確認をさせていただきます。資料は3種類です。本日の事項書、令和元年度第1回熊野市総合教育会議と記載されているもの、資料と記載されているものです。よろしいでしょうか。

それでは、事項書2の(1)平成30年度 主な重点施策の成果と課題について、に移らせていただきます。平成30年度は、主な重点施策として、1 学力向上の推進、2 保護者や地域との連携、3 子どもの読書活動の推進、4 生涯学習環境の整備、5 生涯スポーツの普及と促進の5点をあげ、取り組んで参りました。これらの重点施策の成果と課題につきまして、報告・説明させていただきます。まず、学校教育関係の重点施策1と2を報告いたします。

2ページをご覧ください。重点施策1 学力向上の推進についてですが、別冊の資料と合わせてご覧いただきたいと存じます。学校教育関係は、1ページから4ページとなっております。目指す姿は、恒常的に授業改善に取り組み、それぞれの力量を高め合おうとする職員組織。目標を持って授業に臨み、深い学びと自己の変容を実感している児童生徒、でございます。指標といたしまして、2回目の「みえスタディ・チェック」の結果において、県平均を基準として2ポイント以上の伸びが見られる、としております。成果と課題でございます。成果につきましては、中学校では全教科平均の伸びがプラス6.3ポイントとなり、指標を達成することができました。それぞれの教科において、過去に課題のみられた問題の再活用を行うとともに、一時間の授業の中で、「子どもに何ができるようにさせたいのか」を明確に持って授業を実施したことで、成果につながりました。課題でございます。小学校では全教科平均の伸びがマイナス0.7ポイントで、指標を達成することができませんでした。今後、児童生徒一人一人の課題やつまづきを把握し、引き続きワークシート等を活用して課題の改善に努めることが必要です。日々の授業においては、子ども達が授業の最後に「この一時間で何を学んだのか」をアウトプットできるような授業となるよう、研修会等を通じてさらなる改善を図っていきます、としております。

次に、3ページをご覧ください。重点施策2 保護者や地域との連携（子どもたちが安心して学べる学校にするために）でございます。目指す姿は、地域との密接な連携のもと、課題の克服に取り組んでいる学校。地域の方々と関わり、見守られながら、安心して学校生活を送る児童生徒、でございます。指標といたしまして、全小中学校で、地域と連携した防災訓練や地域人材を活用した授業を年2回以上行う、としております。成果と課題でございますけれども、成果は、指標の達成率は100%でした。いじめ認知件数は17件でしたが、すべて解消済みとなっております。コミュニティ・スクールの取組としては、新鹿小・中学校においては防災に関する取組、五郷小・中学校においては、地域の歴史を題材とした劇に共同で取り組むな

ど、それぞれの地域の課題や文化に基づいた取組がなされました。課題でございます。2020年度からは、市内の全小中学校をコミュニティ・スクールとすることから、両中学校区での取組の成果や課題をすべての学校で共有し、それぞれの地域の実態に応じた学校運営協議会の在り方を検討していく必要があります。全ての学校で保護者や地域防災組織と連携した避難訓練等を実施することができました。今後、参加者をさらに拡大することが必要です。すべての学校で、地域の人材を活用した特色のある授業が行われました。そこでは、講師の専門的なスキルを生かすことで、子どもたちにとって魅力ある授業づくりを行うことができました。今後は、地域のボランティアによる学校支援をさらに拡大していく必要があります、としております。以上、学校教育関係の重点施策の報告をさせていただきます。ご質問等ございましたらよろしくお願いたします。

北野委員

2ページの学力向上の推進で課題のところなんです、日々の授業においては、子ども達が授業の最後に「この一時間で何を学んだのか」をアウトプットできるような授業となるよう、研修会等を通じてさらなる改善を図っていきます、ということなんです、具体的に大規模校、小規模校があると思いますので、簡単にご説明いただけたらと思います。

佐藤学校教育課長

資料の1ページをご覧ください。学力向上の重点目標の2番です。「めあて」「ふりかえり」のある授業の徹底・深化ということが書かれています。この子ども達が授業の最後に「この一時間で何を学んだのか」をアウトプット、ということなんですけども、これについては、いわゆるここで言うところの「ふりかえり」というものです。「ふりかえり」というのは、授業者が授業を計画するにあたって、この一単位時間の授業の中で、どういった子どもの姿を思い描くか、どういったことを理解して欲しいのか、ということ念頭に置いた上で授業の計画を立てます。そういった中で、この「ふりかえり」の姿を思い描いた上で、「めあて」をどのように提示していけば良いかということを考えて授業を組み立てていきます。大規模校、小規模校それぞれあるのですが、小規模校においては、例えば、アウトプット・ふりかえりの方法については、子どもたちが自分自身で、自分の言葉で今日の授業の中で分かったことは何か、分からなかったことは何か、ということ口頭で発表して、アウトプット・ふりかえりをしております。さらに、大規模校においては、一単位の時間的な制約がありますので、例えば30数人の学級で一人一人がそのような形で進めていくと時間がそれだけで終わってしまいますので、大人数においては、自分のノートにそのふりかえりを

書きます。書いたことを後で教員が、分かっているところや分かっていないところを把握していきます。

先日も学力向上の推進研修会があったのですが、その中でもめあてとふりかえりについては非常に大事だと。市内においては、めあてとふりかえりを設定した授業については、ほとんどの学校で取り組んでおります。ただ、この質と言いますか、徹底、深化、これが今後の課題になってくるということを確認した上で、引き続き取り組んでいかなければならないと考えております。

岡本総務課長  
糸川委員

関連して、何かございませんでしょうか。

めあてとふりかえりを始めてから、ずいぶん経過していると思うのですが、始めた頃と今とでは生徒がどのように変わってきたかとか、現場の先生から何か声とかは届いていますか。

佐藤学校教育課長

めあてとふりかえりは、最初なかなか浸透しにくい面もあったのですが、ここ数年は、かなり定着をしていっております。授業の中で、めあて・ふりかえりを設定しなければならないという意識が、先生方の中で持っていていただいていると思います。私自身の実感としましては、一例なんですけれども、ある学校においては、かなり定着しているクラスにおいて、子どもたちが時計を見て授業終了 5 分前にそろそろふりかえりの時間だなと意識を持って、ふりかえりの準備に入ると、そういった状況を聞いております。

糸川委員  
岡本総務課長  
糸川委員  
岡本総務課長  
河上市長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

はい。

他にございませんでしょうか。

感想なんですけれど、重点施策 2 の方の保護者や地域との連携で、成果として指標の達成率が 100% と誇らしげな表現なんですけど、年 2 回地域と連携した取組ということで、年 2 回であれば 100% になることは当然ではないかという気がするので、コミュニティ・スクールで小中学校で行われているということですね、もうちょっと何か次の計画の時には、指標がこのレベルでは不足ではないかという気がしますので、全体としてもう少し、地域との繋がりを深めていくことを次の計画ではしっかりとした指標にしていきたいと思います。

倉本教育長

指標について、ご指摘いただきました。地域と連携した防災訓練等について、以前はゼロという状況でした。それをできるだけ地域全体のこととして、子どもたちも意識して取り組んで行くということで、地域の協力を得ながら進めてまいりました。指標の内容につきましては、この指標ではあまい又具体的なものが読み取れないと

いうことは、ご指摘の通りでありまして、この改善の余地はあると思います。それから、地域人材を活用した授業を年 2 回行うということは、次年度コミュニティ・スクールは全校指定ですので、学校運営協議会制度がスムーズに進むように、地域人材の活用をしております。それもですね、一方的な負担過重にならないように、子どもたちのためになる、そして地域のためにもなるという win-win の関係で学校運営、そして地域を元気にしていくことができるといふことで、今模索しております。

岡本総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。また、何かありましたら、後ほどお願いいたします。

続きまして、4 ページ以降でございますけれども、社会教育関係の重点施策を 3 点ご説明、ご報告させていただきます。別冊の資料では、5 ページからとなっております。重点施策 3 子どもの読書活動の推進でございます。目指す姿は、子どもが未来への夢や目標を抱いて自らを高めるために、自ら進んで読書に親しんでいる。指標といたしまして、1 カ月間に 1 冊も本を読まなかった割合、小学生 2% 以下、中学生 9% 以下としております。成果と課題につきましては、平成 31 年 1 月に、市内の全児童生徒を対象に読書習慣に関するアンケートを実施した結果、同年 1 月に 1 冊も本を読まなかった割合は、小学生全体で 9.35%、中学生全体で 15.79% となり目標の達成にはいたりませんでした。学年が進むにつれて不読率が高くなる傾向があります。この結果等を踏まえて、学校や図書館だけでなく、家庭を巻き込んだ取組を推進する必要があります、としております。

次の重点施策 4 生涯学習環境の整備でございます。目指す姿は、市民一人ひとりが生涯にわたって学習や文化芸術等に親しみ、自己実現を果たしながら生きがいを感じ心豊かに生活しています。指標は、熊野市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価が 4.8 (おおむね満足) 以上、としております。成果でございますが、市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価は、4.81 と目標数値を上回っています。生涯学習の拠点となる文化交流センターの利用者数は前年度比 6% 増の 155,529 人となり、図書館が主催する文学鑑賞講座と各種生涯学習講座の参加者数はそれぞれ 17.9%、18.5% の増加となりました。一方で課題ですけれども、参加者が固定化される傾向が見受けられます。これまで参加していなかった人にも幅広く参加していただくために、新たな企画を検討する必要があります、としております。

5 ページの重点施策 5 生涯スポーツの普及と促進でございます。目指す姿は、市民一人ひとりがライフステージに応じてスポーツに親

しみ、週に1回以上スポーツを通じた健康づくりやふれあい交流に取り組んでいます。指標といたしまして、まちづくりアンケートにおいて、地区の公民館やスポーツ施設、個人で行うウォーキング活動等を含めたスポーツ活動を週1回以上楽しんでいる割合が12%以上、ちなみに、平成29年度は12.6%でございました。成果につきましては、地区の公民館やスポーツ施設、個人で行うウォーキング活動等を含めたスポーツ活動を週1回以上楽しんでいる割合が、平成30年度のアンケート結果で23.1%と目標としている12%を達成することができました。課題といたしまして、総合型地域スポーツクラブにおいては、健康増進のためのエクササイズなども含めて、市民のニーズに応じたメニューの充実が必要です。すでに実施しているストレッチ教室などは、女性や高齢者に人気が高く、今後より一層の充実が求められますが、開催場所を確保することが課題となっています。体育協会やスポーツ少年団においては、加盟団体相互の連携を深めて積極的に自主事業を行うなど、活動の活性化と組織強化が必要です。令和3年度に開催される国体の開催に向け、諸準備を進めるとともに市民への啓発活動を強化するなど、開催の機運を高める必要があります、としております。

以上、社会教育関係についてご報告等させていただきました。ご質問等ございましたらよろしくお問い合わせいたします。

糸川委員

読書活動の推進の指標にあります、小学生が2%以下、中学生が9%以下という指標は、何か基準にしているものはありますか。

雑賀社会教育課長

国の、子どもの読書活動推進基本計画というものがございまして、そこで出されている目標・数値が最新のもので小学生が2%以下、それから中学生が8%以下となっております。これは、令和4年度の目標・数値として、小学生が2%以下、中学生が8%以下という国の目標を参考に、通過点として小学生が2%以下、中学生が9%以下という数値を設定させていただきました。ちなみに昨年度の不読率は、小学生が5.35、中学生が9.34%でした。そのような調査をしたのは、昨年度が初めてだった訳ですが、初めて調査をして、そこから5年後を見て目標・数値を設定させていただいたところでございます。別冊資料の6ページに数値を掲げさせていただいております。

岡本総務課長

関連して何かございませんでしょうか。

河上市長

これは非常に難しい質問なので、今答えられなくてもしょうがないと思うんですけども、逆によく読まれる本はどういう本があるんですか。子どもたちの関心に沿った本を選んで、図書館とかクラスに置いているのか。そういう読んでもらうための工夫というのは具体的に何かあるんですか。

雑賀社会教育課長

司書が、一生懸命に本を選んでいただいているんですが、なかなか子ども向けと言うと少し選書が難しいのかなという風に思います。このアンケートの中でも、「あなたはどのような分野の本を読んでいますか」というような設問があるんですが、一番多いのが、詩集や小説、昔話、物語です。次に多いのが、科学や生物、宇宙などに関する本となっております。小学生はその分野が多い、というところでございます。

河上市長

そのアンケートでは、次に繋がる中身を分析することが難しいように思いますので、今後、そういうことをアンケートで聞いたり、あるいは、調査をしたりする時には、子どもたちが読みたいと思うような本が、分析的に結果として出せるように、聞き方、調べ方をしてもらう方が良いのではないかなと思います。小説なんかは範囲が広すぎて、歴史小説なのか恋愛小説なのかなど、山ほど分野がありますので、そこはもう少し丁寧にやってもらう方が良いと思います。

雑賀社会教育課長

わかりました。

岡本総務課長

他にございませんでしょうか。

河上市長

重点施策 4 の涯学習環境の整備のところ、課題である参加者が固定化される傾向が見受けられます、ということで、これは以前もこの会議の中で言わせていただきましたけれども、学校教育とか生涯学習に限らず、色々な分野の特に募集型の行事とかイベントでは、同じ傾向が見られます。関心のある人が 2 割とか 3 割で。その内の実際に行動に表せる人がまた 2 割とか 3 割とか。これがほとんどの分野で見られます。ですから、新たな企画というのは、本当に創意工夫をして、誰もが行ってみたいと思ってもらえるような企画を考えていただくことが大切ですけど、たぶんそんなに簡単ではないだろうと思います。これはこれで、努力してもらわないと困るんですけども。来てもらうための方策、それは企画の中身以外で、例えば最近はおコミで物やサービスの評価をしっかりと受け止めるということが、重要なので。来てもらっている人に、これ行きましょうよとか、そういう集める方法を工夫しないと固定化を打ち破ることは難しいかなと思います。これは教育委員会の職員の皆さんだけではなくて、市役所の全ての課にも同じことが言えるのですが。是非、創意工夫をしていただきたいと思います。

岡本総務課長

ありがとうございます。生涯スポーツも含めて何かございましたら、よろしく願いいたします。

河上市長

生涯スポーツの普及と促進の中で、課題の開催場所を確保することが課題となっています、というのはどういうことなんですか。



雑賀社会教育課長 一例としてお聞きしているのは、健康・長寿課で今、健康づくりの教室を行っていて、その後、OBさんたちが活動する場所がなかなか確保できないということです。

河上市長 それは、筋トレの話で、その話であればわかるんですが、それ以外に問題はあるのですか。

雑賀社会教育課長 あと、ストレッチ教室も参加人数もかなり多くて、1回に40人とか50人とか集まっています。実際教室を行う場所が、文化交流センターの交流ホールを使ったりというところなんですけども、その確保も難しいという風に聞いています。

倉本教育長 生涯スポーツの普及と促進につきましては、今、会場の話が出ておりましたが、教育委員会として実態がどうであるか、より深くです、より内容を確認する必要があると思っております。その上で、具体的な改善策であったり、新たに求められているニーズであったり、そういったものに対応していかなければならないと思っておりますが、なかなかそこまで手が回っていないという状況がございます。社会教育課だけでなく他の部分についてもですね、スクラップアンドビルドという視点を大切にしながら、より実態の把握を進めた上で、ニーズに即したものに変わって参りたいと考えております。

河上市長 私の理解が間違っていなければ、前から大きな体育館がないので、卓球とかバレーとかバスケットとか割と広いエリアを使うスポーツについては、なかなかやる場所がないという声は聞いているのですが、それ以外では特に機材が必要な筋力トレーニングをする場所が少ないと。なので、それ以外の話については今、教育長から言ってもらったように、あらゆる分野なのか、広いスペースがいる、あるいは特別な機材がいる分野だけなのか、その辺はもう少し詳細に調べていただく必要があるのではないかと思います。というのは、常に小中学校の体育館がいっぱいという訳ではないと思うんです。特にクラブ活動はこれから休みの日を設けなければいけないとかで、中学校では空いてくる可能性があるんで、実態を踏まえて、使える場所の確保というのは、工夫すればこれまでよりは少し広がる可能性は出て来ると思うので、是非一度調べてもらいたいと思います。

岡本総務課長 ありがとうございます。

倉本教育長 子どもたちの読書につきましては、学力向上の部分にも直接関係してくる訳なんです、なかなか子どもたちが本を読まないという実態があります。学校では、朝の読書時間10分程度確保して、各学校が取り組んでおります。しかしながらこの効果が上がってきておりません。家に帰っても本を読まない。この部分については、読書ボランティアの件であるとか、読書感想文の取組であるとか、そう

いったところで、少しでもこういう言い方は悪いのですが、子どもの興味をそそるような本を各学校で紹介したり、またボランティアの方々が、各学校で丁寧に選書をしたうえで読み聞かせを行っていただいております。この積み重ねしかないのかなと思っております。地道ではありますが、一朝一夕に改善できる内容ではないと認識しております。

岡本総務課長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

ないようでしたら、平成30年度主な重点施策の成果と課題につきましては、これで終了したいと思います。

次に、(2)の熊野市教育大綱の改定について、でございます。7ページをご覧ください。1の教育大綱につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地方公共団体の長が「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を定めるものでございます。現在の「熊野市教育大綱」は平成27年に策定されて、計画期間は平成27年度から令和元年度（平成31年度）の5年間となっております。そこで2の大綱改定のスケジュールでございますけれども、大綱は総合教育会議において協議するものと法で定められておりますので、今年度は令和2年度からの「熊野市教育大綱」の改定についての協議をいたしたいと考えております。第1回の総合教育会議ですけれども、本日、基本的事項の確認をしていただきたいと思います。そして、第2回の総合教育会議では、大綱（案）の協議を。第3回の総合教育会議では、最終案の協議と確定を考えております。3の計画期間につきましては、先ほど申し上げましたが、令和2年度から令和6年度の5年間を予定しております。4では、その大綱の内容について、でございますけれども、市の最も基本となる計画に位置付けられる「熊野市総合計画（教育・文化の振興）」を基本に、国の「第3期教育振興基本計画」を参酌しつつ策定する予定となっております。国の基本計画は、10ページに要約したものを付けております。8ページにつきましては、現在の熊野市の教育大綱でございます。9ページは、今回策定を考えております、新大綱（案）でございます。大きく3本の柱にまとめさせていただきたいと考えております。学校教育、青少年健全育成、社会教育 文化芸術の大きく3本の柱にまとめさせていただきたいと思っております。このような形で進めていきたいと思っております。第2回の総合教育会議では、内容について、協議いただく予定となっております。以上で(2)の熊野市教育大綱の改定についての説明をさせていただきました。ご意見、ご質問がございましたらよろしくお願ひいたします。

倉本教育長

9ページなんですけど、新大綱（案）を出来るだけ簡単に焦点化して

いく、わかりやすくしていくことを目的に進めてまいりましたが、学校教育の(1)安心・安心な学校環境の整備という部分をもう少し広いものとして表記していけたらという風に思っております。学校だけでなく、通学路上の事件や事故、そういったことが非常に昨今大きな問題になっております。ブロック塀が倒壊して、児童の命が奪われる、また、昨日の事件のような重大なことも起こっております。そういったことを踏まえて、もう少し通学路、地域での遊び等を含めた、そういった中でこの(1)を取り組んでいけたらと思っております。

河上市長 次に内容についての協議という風になっているのですが、私の考えでは、安全・安心というのは、物理的な意味での安全・安心だけではなくて、2つ目の柱の青少年健全育成という、もう少しソフトな社会環境みたいなものを含めて、安心・安全が子どもたちの活動の全ての根底にあるのではないかなと思いますので、安全・安心という捉え方は、次回の会議により深く議論する方が良いのかなと思います。安全・安心がなければ、子どもたちがよく学び、よく遊ぶということがあり得ないので、ハード的なもの、ソフト的なものを含めたより広い意味での安全・安心の確保をどういう風にしていくかというのは、学校環境という言葉がここには当てはまらないと思うので、どうやって位置付けるかというのが難しいと思います。

岡本総務課長 ありがとうございます。次回ではそういったことも踏まえて議論していきたいと考えております。教育大綱の改定につきまして、よろしいでしょうか。

倉本教育長 すでに、こちらの資料については案の段階で教育委員の皆さんや市長にも見ていただいていると思うのですが、今後そういった項目も含めて今一度精査していく必要があるのかなと思います。私自身も何回見ても、少し違和感を感じたり、こうした方が良いのではないかなとか思ってしまうので、若干時間はかかると思いますが、この先令和6年までの長い期間ですので、少しでも取り組みやすいものにしていく必要があるのかなと思います。

河上市長 大きな3項目立てになったのは、私はどちらかというと賛成なんです。このことによって、学校教育のところの重点がより強化されると。重点施策5つよりも3つの方が、学校教育についての重点度が高まるという意味では、3つが賛成なんですけども。それぞれの下の項目、例えば学校教育の中で(1)から(8)までありますけど、もう少し(1)から(5)までは学力向上ということで、中項目を作ったりとそういう工夫がないと、いきなり3項目から22項目があるんですね。ちょっと項目だけが一気に細かくなりすぎていて、頭の

整理がしづらいところがありますので、そういう工夫も必要ですし、先ほどの安全・安心の捉え方なんかも必要になってくるのではないかと思います。

岡本総務課長

ありがとうございます。この項目につきましては、より良いものにしていくために、また分かりやすくするために変更も可能性としてはあるということですのでよろしくお願いいたします。

それでは次に(3)の学力向上の推進について、に移らせていただきます。平成30年度までは、(1)で成果と課題を報告させていただきましたように、会議の事項といたしまして、非常に多くを盛り込んでいたところでございます。今年度におきましては、会議は現在のところ、昨年同様3回を予定しておりますが、それぞれの会議におきましては、内容を絞ったうえで議論をしていただきたいと思いますと考えております。今回は「学力向上の推進について」について絞らせていただきました。それでは、佐藤学校教育課長からご説明させていただきます。

佐藤学校教育課長

それでは、12ページをご覧ください。学力向上の推進について、でございます。取組の方向性です。校内研修会等の質の向上を図り、授業改善を進めます。指導主事等(三重県紀州教育支援事務所等を含む)を派遣し、各学校における校内研修会や授業研究をより充実させ、質の向上を図り、授業改善を進めます。各学校における指導主事等の派遣の回数については、市教委として、数値目標を出しております。次に主な取組内容です。学力向上支援事業でございます。内容については、市教委が指定した学校において、招聘した講師の指導助言を受けながら授業改善を行い、児童生徒の学力の向上を目指します。指定1年目の学校では授業研究等を通して授業力の向上に取り組み、2年目に研究発表会を開催して研究の成果を交流します。少し飛びますが、資料の2ページをご覧ください。2ページの上から2行目に2年目の指定校、井戸小学校、金山小学校を書かせていただいております。この2校が今年度に研究発表会を行うということでございます。12ページに戻っていただきたいと思います。資料にはこの時点で間に合わなかったので書いておりませんが、指定校1年目の学校は決定をしております。五郷小学校と木本中学校でございます。

次に、学力向上推進研修事業でございます。年3回の学力向上推進研修会を開催いたします。全国学力・学習状況調査の分析を踏まえて、教員が授業改善を行い、自らの指導力を高めることにより、児童生徒の学力の向上を目指します。三重大学と連携し外国語・外

国語活動における効果的な指導方法や指導用教材等の共同研究を行います。こちらにつきましては、資料 1 ページにも触れておりますので、後ほどご覧ください。

続きまして、地域未来塾事業でございます。夏、冬の長期休業中に、小学校 4 年生から 6 年生の希望児童を対象として、市の施設や各学校において学習支援を行います。講師には、将来教員を目指す熊野市出身の大学生や教員 OB 等をあてます。参加児童が「わかる楽しさ」を実感し、そのことで学習意欲の向上を目指します。

グローバル体験事業でございます。英語の世界を楽しく体験させることにより、グローバル社会に対応できる児童生徒の育成を目指します。英語で、身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現などができる能力を身につけさせます。こちらにつきましては、今 ALT4 名を事務局に配置をしております。この 4 名が中心となって行います。早速 6 月 2 日に第 1 回のグローバルスポーツイベントというものがございまして、昨年度同時期に開催したところ、参加人数が 24 人だったのですが、今年度、今の申込み段階ですけれども、37 人の児童が参加をしていただく予定となっております。8 月に英会話教室を予定しております。それから 12 月には、ウインターカルチャーフェスティバルというものを予定しているところでございます。

最後に、ICT 教育推進事業です。アクティブ・ラーニングにつきましては、学習指導要領上は、主体的・対話的で深い学びと記述されておまして、いわゆるアクティブ・ラーニングという言い方をしております。アクティブ・ラーニングの視点に立ちながら、ICT 機器を効果的に活用し、子どもたちの学ぶ意欲の向上と生きる力を育む教育の実現を目指します。先ほど学力向上推進研修事業でもありました、三重大学との連携をしまして、プログラミングの指導方法や効果的な指導用教材等の共同研究を行うということになっております。

めざす姿といたしましては、恒常的に授業改善に取り組み、それぞれの力量を高め合おうとする職員組織。目標を持って授業に臨み、深い学びと自己の変容を実感している児童生徒、ということでございます。指標といたしましては、2 回目の「みえスタディ・チェック」の結果において、県平均を基準として 2 ポイント以上の伸びが見られる、としております。

学力向上の推進のご説明は以上でございます。何かご質問等がございましたら、よろしくお願ひいたします。

大久保委員

学力向上の推進についてですが、5 つの事業が掲げられています。

それぞれこの事業をやることによって、こういうところまで伸ばしたいという目標があるかと思います。それについて、教育委員会としてどんな風に捉えているのですか。これまでやってきて、年々すごく伸びてきているなどか、この部分についてはもう少しだなとか、そういうところではどうでしょうか。

倉本教育長

学校教育課長は1年目ですので、私の方からお答えさせていただきます。それぞれの項目につきましては、意義のある事業であると思っております。ただ学力向上支援事業につきましては、各学校が指定されているという認識を強く持って、校内研修、授業研究に取り組んでおりますので、これは、一定の効果があります。また2つ目の学力向上推進研修事業につきましては、めあてとふりかえりの徹底であるとかですね、家庭学習の充実であるとか、読解力の育成という部分では効果を上げておりますが、若干この部分については、昨日課長に少し指示を出しました。マンネリ化したことを繰り返してもだめだと。実態に応じて、より効率的、効果的なものに変えて行きなさいということで、今年度さっそく中身のリニューアルと言いますか、捉え方を変えて進めてまいります。マンネリ化という言葉は悪いのですが、より実態に即したものに成り得ているかということ。教育委員会で、どのように今の子どもたちの学力を捉えて、どうやっていこうとしているのかという具体的なものをもう少し持つべきだということで、昨日話をいたしました。

地域未来塾事業につきましては、これは子どもたちが非常に喜びます。自分と年齢の近い大学生が勉強を教えてくれる。大学生の方も、教員を目指すという気持ちがより強固なものになる。非常に評価が高い事業であります。ただ、参加率という部分につきましては、課題がございます。もう少し周知をして参加率を上げてまいりたいと思っております。

グローバル体験事業につきましては、英語の外国語活動が3年生、4年生。教科英語が5年生、6年生、ということになっておりますので、よりネイティブな英語をいろんな活動の中で、子どもたちが受け取る。そして、自分も英語で返していく。そういった体験をします。これは効果的であると思っております。

ICT教育推進事業では、これは子どもたちの学ぶ意欲の向上とともに、今までプログラミング教育についての指導は、教員がやったことがない部分でございます。ですからこういった事業を通じて、まず教員が、プログラミングを教える技量を身に付けて行く。そして、なおかつ子どもたちが意欲的に取り組む、ということがございますので、これは今後はずせない事業でございます。私としては、今後

リニューアルする事業は、学力向上推進事業とグローバル体験事業の2つでございます。以上です。

糸川委員 地域未来塾事業は、とても素晴らしい事業で、周知することも大事ですけども、知っているけども参加しない子どもの割合は、どのようなものなんでしょうか。

倉本教育長 全ての児童に、チラシを配布しますので、子どもたちはその事業、そういった教室があるということは認識しています。ただそのプリントが、保護者のもとへ届いているか、保護者とそのことについて話をしているか、というところは各学校に依頼をしていますけども、知っているけども参加しない子どもの割合は、今のところ把握しておりません。もう一つはですね、学校によって参加率が違います。たくさん参加している学校は、次の年もたくさん参加している傾向にあります。その辺りが、課題として社会スポーツをやっている子どもであるとか、いろんな習い事をしていたりして、参加できない子どもたちもおりますが、家でゲームをしてたり、遊んでいる子どもたちが少しでも参加できるような工夫をしていかなければいけないのかなと思っております。

糸川委員 子どもは、親の意見も大事ですけど、子ども同士の意見を取り入れるというか、親が言ったから行くということではなくて、友達が参加して良かったよ、楽しかったよと言ったから、私も行きたいとか、そういうところも大事なのではないかなと思います。もちろん、親御さんにこういう事業をやっていることを知ってもらうことも大事ですけども、地域未来塾に参加した子どもたちが、その良さをほかの児童に伝えていくような取組もあれば、全体的にもっと広がっていくんじゃないかなと思いました。

河上市長 今回の糸川委員の意見については、全くその通りだと思うのですが、それは地域未来塾だけではなくて、グローバル体験事業とか ICT 教育とか自ら参加意欲を持たないと参加しない、そういう取組についてはですね、やっぱり子どもたちの口コミが必要ではないかと思えますし、面白みがまず分からなければ口コミは広がらないので、口コミと面白さを子どもたちが分かるようにするというのが、両方セットではないかなという風に私も思います。

あと、資料の提供ということで、全国的に学力が高い所は、福井県とか富山県、秋田県など聞きます。平均的な結果しか知らされていないので、福井県のどこで全般的にできるかどうか分からないのですが、比較するのはおこがましいのですが、それほど都会の県ではないんですよね。三重県も北部は都会ですけど、南に来れば来るほどそんなに大きな違いはないのに、教育レベルで残念ながら差が

あるという状況がなぜ生じているのか、教育レベルの高い県でどう  
いう風なことを行っていたり、例えば 3 世代で住む世帯が富山県で  
は圧倒的に多いとかですね、顕著な差があって、県教委でそういう  
資料はあると思うのですが。冒頭で議論した地域と学校との連携と  
いう時に、ここに書いてある取組が全て学校サイドからの取組であ  
って、環境を変えないと子どもたちが安心して学ぶという風になら  
ないこともひょっとしたらあるのかなと。もう少し幅広い視点で、  
学力向上を考える必要があると思うので、参考となる幅広い資料を  
提供していただけたらと思います。

倉本教育長

市長がおっしゃったように家族の形態であるとか所得であったり  
いろんな要因が語られておりますし、データとして出ております。  
そういった中で、三重県教育委員会も福井県に指導主事を 1 年間派  
遣してその内容を学ばせて、各市町へ提供したりという取組も過去  
にありました。そんな中で、それぞれの市町が子どもたちや地域実  
態に応じて取組を進めているのですが、三重県自体も全国平均をな  
かなか上回ることはできない。熊野市も同じような状況です。教育  
委員会としては、非常に語りにくい部分、家族構成のこととか所得  
のことであるとか、そういったことは自分たちの責任を回避してい  
るのではないかと危惧の念を持つ訳です。ですから、教育委員会と  
して学校として出来ること、それに特化した取組、言動に偏らざる  
を得ないというところはあります。そうやって市長が言っていた  
のであれば、今後ある程度広めた話し合いがしていけると思  
いますし、それは私どもにとって有難いことでございます。

河上市長

熊野市も共働きの家庭が圧倒的に増えて来ているので、子どもた  
ちが一人でいる時間が長いと。その時に、これも大変言いづらい表  
現なんですけれども、やる子はやるんですよね。ですが、自分から  
はなかなかやらないけど、先ほどの糸川委員の話でもあったように、  
友達に誘われたら行くといった、ほんの少しのことで子どもたちの  
前向きに考える姿勢が出てくる可能性もあるので。家庭のことを地  
域が肩代わりできるかどうかは分かりませんが、例えば放課後児童  
クラブなんかは、ある程度その役割を果たすことが出来るかも知れ  
ないし、地域の人たちとの社会的なつながりが、家庭の役割も果た  
す可能性もあるのではないかと。子どもたちが安全、安心というの  
は、そういう人たちとのつながりがあるということが、安心につな  
がって、その安心感が前向きな姿勢に繋がる可能性も否定はできな  
いと思うんですよね。3 世代で、家に帰ったらおじいちゃん、おばあ  
ちゃんが必ずいて、おやつを食べたら勉強しなさいといったことが  
地域として出来るかどうかというのは別なんです。先ほど教育長



が言われたように、教育委員会で地域への働きかけをどれだけできるかっていうのは難しい面があるかも知れないですが、少なくともきちんと議論をした上でどこまでやるかという施策はまた別途考える必要があるのではないかなと思いますけども。

岡本総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

佐藤学校教育課長

今、市長がおっしゃったことと関連するのですが、現在においても例えば中学校において、教員側から宿題という形で家庭学習をさせる面ももちろんあるんですけども、自主的に自分でテーマ、内容を決めて学習をしていくというような家庭学習の方法と二通りの方法で家庭学習をやらせていて、先生方は、提出されたノートを一人ひとり丁寧に見て、一人ずつコメントを書いて子どもたちの意欲付けのために返してという取組をしている中学校が多いです。

河上市長

先生方が努力をしていないというのは、全く言っていませんで、一生懸命やってもらった上で、今のままのやり方では微速前進な状況は分かるんですが、成長のスピードアップがなかなか見込めない状況が続いているということなので、少し視点を変えて、地域のつながりを取り込めることができるのであれば、そういうこともやらなければならない。その時に、教育先進県においてどういうところがこの地域と違うのかということは知っておかないと意見として言いづらいところはありますので、ぜひ勉強させていただきたいと思います。

大久保委員

学力をつけるというのは、学校の先生方の努力も大事だし、家庭や地域の協力もとても大事だと思います。よくできて大学へ進学して、その後熊野市に帰ってこない子どもが多いんですよね。都会へ行って就職するという子どもが多いです。そういう面もあって、親が勉強を無理に勧めず、ほどほどで良いという保護者の方も見えまじ、なかなか難しいんですけども、勉強もある程度大事だということも家庭にも分かってもらえればと思います。富山県では、3世代で子どもが帰って来たら、親が見れないところは、おじいさん、おばあさんが見ているといったことをテレビでやっていたけれども。地域、家庭全体で子どもを見守るという態勢が出来ている、それが一つの風土になっているというか。そういう面で子どもの力が付いてくるのではないかと思うんですけども。この地域は、親自身の勉強に対する考えもいろいろありますし、難しい面があるかと思いますが少しずつそういう面も分かってもらうような努力も大事かと思います。

佐藤学校教育課長

今現在学校においては、家庭学習の手引きというものをほとんどの学校で作成しております、家庭学習において、どのような方向

性を持ってどのような内容でやったら良いかという辺りを時間等も含めて、家庭の協力を呼びかけながら、家庭学習の取組を進めております。

岡本総務課長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。なければ全体を通してでも結構ですので、何かありましたらよろしく願いいたします。

教育委員全員 無し。

岡本総務課長 ないようですので、事項書の2の(4)その他に移らせていただきます。事務局からですが、次回開催予定は、10月を予定しております。内容につきましては、1点目は熊野市教育大綱の改定、2点目は、本日の「学力向上の推進」のように、現在の教育大綱に基づく、重点的な取組を取り上げ、議論をいただく予定となっております。

本日は、委員の皆様、市長からいろいろなご意見をいただきました。これまでの成果・反省・課題も踏まえて、これからの取組に反映させていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして令和元年度第1回熊野市総合教育会議を閉会いたします。本日は本当にありがとうございました。